

令和4年度第2回恵那市総合教育会議議事録

日 時 令和5年2月20日(月) 午後1時30分～

場 所 恵那市立山岡中学校

- 会議次第
1. 施設見学(山岡中学校)
 2. 市長、教育長あいさつ
 3. 議題
 - 恵那南地区中学校再編について
 - ・保護者説明会の報告
 - ・地域説明会について
 - 意見交換会

出席構成員：恵那市長	小坂 喬峰
(6名) 教育長	岡田 庄二
教育委員	村松 訓子
	後藤 伸子
	樋田 千史
	西尾 修欣

事務局： 副教育長	西尾 朋子
教育委員会事務局長	長谷川 幸洋
教育委員会事務局次長兼	
教育総務課長	佐々木 和美
学校教育課主幹	安藤 善和
教育総務課係長	原 久晃

開会(午後1時30分)

2 市長、教育長あいさつ

教育総務課長

会に先立ちまして、山岡中学校を視察していただきました。お寒いところありがとうございました。本日は、恵那南地区中学校再編についての議題で進めさせていただきます。

これからは、市長との意見交換会ということで始めさせていただきます。

今回の総合教育会議につきましては、いつものように設置条例の第5条に基づきまして会議を公開し、議事録のほうも公開いたしますので、よろしくお願いたします。

それでは、まず初めに小坂市長よりご挨拶をお願いいたします。

市 長 皆さん、改めましてこんにちは。今日は少し場所を変えて山岡中学校ということでご案内しましたところ、皆様、参加いただきまして本当にありがとうございます。

今ほど担当のほうから話がありましたように、南地区の中学校の統合につきましましてはいろいろな経過もありましたが、ここに来て、教育委員会の結果を受けて、そして、地元に入っていった中で、何とか進められるのではないかとということを見いだすことができたということでございます。

先週の記者会見の場でも、私のほうから「市としても進めていく方向で提案する」ということも申し上げましたし、明後日、議会の初日に、私のほうから、予算も含めて統合につきましましては、皆様のご意見を聞く中で、統合に向けて動いていきたいということをお願いするつもりでございます。

そうした中で、今日、ここにいらっしゃる皆様方におかれましては、本来の教育のあるべき姿のところ、こんなふうにしたらいいかとか、こういうところは直したらいいか、こういうアドバイスがあるのではないかと。こんな率直なご意見をお聞かせいただけたらと思っております。

いろいろなご意見がある中で、教育長もよくおっしゃってみえますし、僕も思うのは子供たちにとって何が一番ベストかということが、全ての課題の一番大事な点だと思いますので、その核になる部分を外さないようにして、そして、何とかこれを誇り得る学校にできたらなと思っておりますし、そのために、市としても全面的にバックアップといいますか、協力をしてまいりたいと思っております。本日の会議、どうぞよろしくお願いいたします。

教育総務課長

ありがとうございました。

続きまして、岡田教育長、よろしくお願いいたします。

教育長 こんにちは。今日は総合教育会議ということでお集まりいただきありがとうございます。

市長からもお話がありましたけれども、本当に大きな施策ということですが、市長からも、記者会見で「子供のことを一番に考えて」というお言葉を頂いたときに、本当に責任を持って進んでいかなければいけないと感じた次第でございます。

また、後ほどありますが、保護者のほうへの説明にも入っていく中で、新しいことですので不安もありますし、まだまだ課題もたくさんあると思いますが、それを一つずつ解決や、一緒に考えていく中で、本当に地域の学校と捉えていただける、そして、子供たちが「行きたいな」と思える、そんな学校にしていきたいと考えておりますので、また、いろいろなところでご意見を頂きながら、一緒に進めていきたいと思っております。

教育総務課長

ありがとうございました。

3 議題

○恵那南地区中学校再編について

教育総務課長

恵那南地区中学校再編についてということで、今まで保護者説明会の中で説明した内容を皆さんへご報告したいと思いますので、よろしく願いいたします。

学校教育課主幹

資料に沿って説明。

教育総務課長

保護者及び地域の説明会について、資料に沿って報告。

教育総務課長

それでは、教育委員の皆様から先にご発言をお願いいたします。

委員 保護者説明会に同席させていただきました。保護者よりも反対派の方が見えて結構きつめの意見をおっしゃっていました。私は、その場で保護者の皆さんに家の中でこの統合の問題を親子で話し合ってみてくださいと、発言させていただきました。

後日談ですが、家の中で中学校の統合問題の話をするとおじいさんたちとすごくけんかになってしまうと言っていました。子供と親とおじいさんとおばあさんを交えると、本当に空気が重くなるぐらい言い合いになってしまった、という話をその後で聞きました。

説明会にも参加させていただき、普段の生活とかで、まだ、お年寄りの方のほうで恵那市になってからでも恵南の意識が強いといえますか、恵那市になって、もう20年になるのですが、まだそういう地域が衰退してほしくないという気持ちがあるようにあつて。

意外に子供たちは、地域のことについてそのような思いは全然なくて、中学校で行われている生徒会のリモートの交流会や、今はコロナでできてないですけど、合唱交流会なんかをすごく楽しみにしていて。でも、リモートの交流だと生徒会に入っている一部の子だけになってしまうので、そういったリモートで伝え切れないものもどんどん交流していくといいかなと思いました。

吉田小学校と明智小学校が合併する前も交流会を何回かやってきていました。保護者さんも学校に何度も来てくださっていて、吉田小学校の親さんが明智小学校に授業参観に見えたりしました。今日、説明と学校案内をしていただいて思ったことは、保護者さんにも、オープンスクールじゃないですけど、この中学校を公開する機会があればいいかなとすごく思いました。今日、拝見させていただいてそう感じました。

以上です。

教育総務課長

ありがとうございました。

委員 お願いします。先ほど委員が言われた保護者に向けての公開というのはとてもいいと思います。特に、4年後の開校なので、今、ここにいる子たちは卒業しちゃってまた新たな子たちが入ってくるわけですので、その子たちにも知ってほしいし、そこの保護者たちにもぜひ知っていただきたいと思います。

あとは、一番は子供たちが今後社会で生き抜いていくための力をつけるための統合であり、今後、たくさんの大人、たくさんの子供たち、同じ年代の中で切磋琢磨しながらベースを身につけていく大事な時期だと思いますので、少ない人数ではできないことが統合することによってできる、確実にその力がつくということを示していくこともとても大切だと思います。

あと、職場に明智中学校出身の子がいますが、先日、とても地域が好きだといっていました。明智が大好き、ここの地域を離れたくないという社会人の方です。もちろん明智の小中学校の生活が楽しかったというのもあるけれど、地域に根づいた活動を小中学校で、とてもやっていたと。いろいろな地域で同じことが言えると思いますが、南地区が統合されることによって、明智を離れたくないじゃなくて、恵那市を離れたくないというような子がたくさん出てくるのではないかなど。いろいろな地域の祭りも知ることができる、いろいろな地域と関わることができる、そういう力も身につけていくのではないかということをおもいます。本当に大変なこと、たくさんの反対意見も出てくるとおもいますが、ここは子供たちを一番に、というところの軸を外さないように皆さんと一緒に考え合ってくださいと思います。

以上です。

教育総務課長

ありがとうございました。

委員 お願いします。

統合して、これはすごい学校だなという魅力あるものにしていく必要があります。先ほど説明された、学校で身につけたい力というのは、挑戦する力やたくましさとか、人との関係を保つ力、壁を乗り越える力、これほどこも一緒。しかし、本当に統合したら……。仮称で「南中学校」になるのか。統合して、すごい学校だなと。子供たちに「力」をつけるとすると、一体、何をするのかと考えることが必要です。頭の良い子を多くつくるか、ノーベル賞を取るような子をつくるか、オリンピックに出るような子をつくるか、極端なことを考えていながら、この学校は素晴らしいというものをつくる。統合した後に「なんだ。一緒じゃないか」と、地域の魅力を感じないとか、そうならないようにおもいます。なので、何を目玉にしたらいいのか考えることが必要とおもいます。そのような気がします。

また、準備委員会等を立ち上げ、早く進めていかないと、お金もかかるかもしれないけれど、遅れたりすると、また批判を浴びるかもしれない。そんなことも心配しています。

ただ、最初に言ったように、教育委員会とみんなで知恵を出し合って、統合して本当に魅力のある学校をつくるよう進めていけるといいと思います。

それから、反対意見というのもあります。チラシも出ていますが、確かな情報は伝わっていないということも分かります。反対者もいる中、前を向いていこうとすると、いい意味に捉えていく必要がある。今度は市長さんが明言されましたので、心強いと思います。「これは市が力を挙げてやることなので、協力してくれ」ということを強く言える。そんなことを思いました。

以上でございます。

教育総務課長

ありがとうございました。

委員 本日の総合教育会議のこの席で、ぜひとも市長に聞いていただきたいということを半月ほど前からずっと考えておりました。その必要がなくなりましたので申し上げます。

ただ一言、市長のご英断に感謝いたします。その上で、いよいよ具体的に動き出すということになるわけですが、スケールメリットという言葉があります。ある程度の数が大きくなれば、とてもメリットが有利に働くというような意味です。特に学校、子供たちの教育環境においては、究極の少人数学校というのは家庭教師です。これ以上少人数な環境はないです。しかし、家庭教師に教えていただいている子供たちに、例えば、運動会、あるいは部活動のそういった機会はありません。そういった学業のみならず人間関係を形成していくにはやはりスケールメリットというのは大きいと思います。ある程度の数、これが1学年10クラスも20クラスもなんていうようなことは言いませんけれども、以前から話が出ておりますように、クラス替えができる学年という最低限のスケールは必要であろうと。

そのために、もう6年も7年も前からこういった話が、動きがあるわけでありまして、それがやっと日の目を見ようだというようなことになってまいりました。その数というものに対して非常にアレルギーを持って見える方も中にはあるかもしれません。しかし、そのメリットを最大限に表現して、一人でも多くの方にご理解を頂く必要はあるだろう。

また、先ほどの委員の発言の中にもありましたけれども、やはり、世代によっていろいろな考え方があるのは事実です。この山岡町というのは昭和の大合併のときに山岡町ができたそうですけれども、それまでの遠山村、鶴岡村の一字ずつを取って山岡町になったそうです。ちょうどこの中学校の下に（小里川）という川がありますが、そこが境でした。昔々はそこで石合戦をしたというような話も聞いております。

ところが、これは昔々の話ではなくて、今でも話が出ます。遠山が、鶴岡がというような。もう半世紀以上も前のことがいまだに話に出るというような状況で、恵那市に合併してもう17年になる。でも、やはり恵南だ、旧恵那市だというこ

だわりよりも、さらに恵南においては5か町村のこだわりという、エゴというのがあります。それは事実。

しかし、それらを乗り越えて恵那市が一つになって、恵那市の子供たちのことを考えたときには、これはもう必要な統合であるということは、大いにアピールをしていく必要もあるだろうと思います。

具体的なことは、これから話が進んでいくわけですので、やりがいもあるでしょうし、その分、大変な作業も伴ってくると思いますけれども、子供たちを巻き込みながら、いい学校にするべく、準備を進めていくということが大切であると思います。

以上です。

教育総務課長

ありがとうございました。

それでは、保護者説明会につきましては、今回、教育長さんも全て出ていただいています。教育長さんはその雰囲気も皆様にお伝えしながら、少し発言をよろしくお願いいたします。

教育長

新型コロナウイルスが流行ってから、教育関係の中でよく言われるのは、学校は何のためにあるかをもう一度考える時期だと。リモートで授業を受けようと思ったら、家にいても授業は受けられるけれども、本当にそれだけでいいのかということです。学校は何のためにあるのか。私はそこにいろいろな人との関わりとか体験とかという、つながり、そういうことがすごく大切だと思います。

先ほど言われたように、勉強だけができればいいのか。その勉強もいろいろですけれども、知識だけあればいいのかということと、今はそのような時代ではないことも含めて考えていかなければいけないということと、先ほど、委員さんから「魅力ある学校」ということですが、これも本当に難しいと思っていて、もちろん授業もちゃんとできるし、それから、知と徳と体のようなところですね。それは、どうしてもやらなければならない上に、魅力をどこに持っていくかといったときに、これは私の本当に個人的な気持ちですが、キーワードとしては「ふるさと」というようなこととか、それから「キャリア教育」とか。このようなところが大きな特徴というか、魅力になってくるかなと思っています。このようなことに近づいているのが、規模は違いますけれども笠岡地区かなと思っています。

笠岡地区の動きや先進的な取組も見ながら、恵南地区の特徴が出せる。やはり保護者の方たちはどこへ行っても言われるのは、各学校で行っている活動、太鼓や、上矢作のプロジェクト100等、今後はどうなるのか聞かれます。子供たちが山岡中学校へ行ってしまうと、地域とのつながりというのはどうなるのか、ということ強く言われます。そこは十分大切にしたいし、もっと言うと、今まで串原のことは串原で中心に行ってきたわけですが、これからは、仮称恵那南の新しい学校の子が串原のことも学ぶよ、上矢作のことも学ぶよと、岩村もと。そ

のように、いろいろなものを学びながら、恵那南地区の良さや伝統、文化のすばらしさを学んでいく中で、私のふるさとは恵那南だと。そんな学校をつくりたいなと思います。

また、教員というのもとても大きな環境の一つです。

統合することで、専門の教員がそろいますし、リーダー的な職員も増える中で、教員同士が切磋琢磨するなかで、子供たちに教科の力だけではなく、人としての魅力も含めて伝えることができるような、そんな学校にしたいですし、そういう職員配置をしたいなと思っています。

私が一番心の中で思うのは、魅力ある学校というのをどこに求めるというところなんです。私たちだけが求めるわけではないと思いますが、教育委員会としてはこんなことを今考えています。価値観も多様ですし、本当に難しいところはあるなと思いつつ、最後は、社会で生き抜いていく、やはり力強く生き抜いていけるような、そういう力をつける中でどんな特色が必要なのか、そんなことを、思っているところです。

それから、保護者説明会に行った感想で言いますと、やはり大方の人はいろいろな思いはあるけれども、子供のために考えていきたいという姿勢はとても強く感じています。子供のためにと、いつも置きながら進めていけば、多くの方には理解を頂けるかなと思います。また、進めていく中で、少しでも不安なこと、課題などをクリアしていくことが大切かなと思います。

また、情報発信ですが、今回、やはり強く言われたのは、情報発信のこともありました。今後は、早い段階で情報発信ができたらと思っています。以上です。

教育総務課長

ありがとうございました。

それでは、市長、皆さんの発言を受けてご意見をよろしくお願いいいたします。

市 長 改めまして、皆さん、ご意見を頂き、ありがとうございました。

今回の件について、先週、当初予算の全体の説明を記者会見でやりました。全員協議会で議会の皆さんにも発表致しました。その中で幾つか要点となるようなことがありまして、特に教育関係でいいますと、この4月から「教育発達支援センター」を新たに設けます。条例化して少し体制を強化するという一方で、特に不登校やひきこもりとか、それから少し支援を要する子供たちのための体制づくりを強化するということが一つ。

それから、ICTの支援に関して、新たに「教育らぼ」という名前をつけて、教育分野のICTだけを専門に扱って支援をする。今、どちらかというと、学校を支援するための組織を新たに設けて、そこで、全面的に恵那市全体の底上げを図っていくということを考えます。

加えて、今回の南中学校の統合も進めるということで、全体としましては、恵那市の教育の、いわゆる基礎的な体力を、少し、かさ上げしていけるのではないかと考えています。

なぜ、このことを言うかということ、最近の新聞報道を見ていただくと分かりますけれど、例えば、東京都だと世田谷区や港区とか、自治体が子供手当を国に先立って配り始め、給食費の無償化も始めています。名古屋市も同じような動きをしていますし、県内ですと岐阜市、いわゆる大都市、もっとはっきり言うとお金のあるまちが教育に使うお金を、一番に投資をし始めている、これが現状です。このバックには、新型コロナウイルスで、皆さんは経済環境が厳しくなったと思っていられるかもしれませんが、国でいくと、もう何十兆円と税収が上がっています。IT系の企業や他の企業も含めて、法人税がどんどん上がっていく中で、大都市の税収というのが伸びていて、その投資の振り向き先が教育に向かっていると、私は見えています。

残念ながら、恵那市は税収は少し上がりますけれど、そんなに十分な投資はできないにしても、やはり、このタイミングである程度の教育を、他市に先駆けてとは言いませんが、少なくとも他市に遅れないように投資をしていく、もしくは、子供たちに対する、今まで10年とか20年同じことをやってきたならそれをもう一つステップを上げるということは必要だろうと感じています。

そういった大枠の考え方があって、今回、それとは別に南地区はいろいろな環境が整ったこと。これは地元も含めてそれぞれの関係の皆さんのご理解があって実現するというので、先ほど、教育委員さんは市長のご英断と言いましたけれども、僕が判断できるだけの材料がそろったというふうにご理解いただいたほうがいいですね。それは教育委員の皆様からも前々からも言われていましたが、いろいろな方から声を頂ける中でみんなの意思が統合に向けてまとまってきたと。そのことが、私は一番大事だと思っていますし、これがおおむね皆さんがこちらの方向へ行こうというふうに思いが一つになったところ、動き始めるというのが今回かなと思っています。

その意味では、本当に関係の皆様のご理解、そして、本当の意味でのご協力に感謝申し上げたいと思います。

そんな中で、皆様から一つずつ意見を頂いたので少し申し上げます。

世代間の話ですけれども、これは実感として持っていて、世代間でこのように意識の差があるというのは、払拭しないといけないですし、逆に言うと、該当しない人たちの意見で判断が曲げられるようなことがあっては困りますので、これはぜひ該当する子供たち、要するに本人です。当人さんか、その親がまず納得していただくこと、そこの意見が一番大事です。そのあたりのご理解もよろしくをお願いします。

それから、地元愛や地域愛の話が出まして、僕は非常に悩んでいるところが1点あります。新しい恵那市だから恵那市愛があればいいんじゃないかというのは、一般的にはそう申し上げますけれども、実は統合することで、より一層地域の理解と申しますか、自分の生まれたまちの理解が深まるのではないかなと思っています。これは、国際交流でも言われていまして、外国へ行くと初めて日本

のことを勉強しないと分からなくなる。自分の生まれたルーツを知ることで、日本人であることを誇りに思うようになったというようなことをよく言われます。同じように統合することで「串原に生まれてよかったわ」と言ってもらえるような子に育てることが、大事だと思っています。そのためには、各地域の色を消すのではなく、各地域の色をもっともっと残していったほうが、私はいいような気がしています。

今回は5つの地域の中学校が1つの中学校になる、だからこそ、私の生まれたまちはこうだったとか、そんな話がずっと残っていいと思っています。

これから先、準備委員会を進める中で、地域のアイデンティティや自分の生まれてきたところのルーツの理解をするためにどういうことができるかということも一つのテーマだろうと思いますし、それらが集まって、全体としての恵那市、集合体としての恵那市を語り継ぐということです。その恵那市を好きになっていくと。こんなふうに理解をしながら、地元を愛する子供たちをどうやって育てるかという意味では非常に大きなテーマとして考えたいと思っています。そういう意味では、魅力ある学校とは何だというのがやはり一番大きなテーマとなると思います。今、岡田教育長にお願いしているのは、統合に当たっては、いい夢をみんなに示すべきだということをお願いしています。それは議会の中で発表していただくようなことができると思います。だから皆さんここに行きましようという感じに持っていけるのが何よりもいいと思いますし、私もそれに賛成します。

まずは、どんなことができるのかを表現できるといいと思います。

それから、統合することをきちんとアピールして要望を伝えてほしいというお話もございましたので、そこら辺も含めて、私どもの教育委員会等に市としても話していきたいと思いますし、市としては、教育委員会が実現しようとしている新しい学校の姿を全面的にバックアップし、支えようと思っています。

また、体育館の空調も6年度から順次つけていきます。

来年から一応スタートしまして、設備や環境を整えるところはこれからも引き続き取り組んでいきたいと思っています。

このことについては、今後も皆さんに伝えていくというのが何よりも重要でしょうし、残された時間は、先ほどお話に出ましたように、そんなにたくさんありませんので、今回、きちんと令和5年度の予算で4月からスタートするということを、前提として、準備委員会の設立も考えていけます。

いずれにいたしましても、まだまだ説明を要することはたくさんありますし、特に地域ごとの合意みたいなものは必要じゃないかなと思っていますし、そういう意味では、いろんな手順を途途中のステップに入れながら、節目を迎えながら進めるべきだと思っています。引き続き、よろしくをお願いします。

教育総務課長

ありがとうございました。

時間になりましたけれども、何かご質問、ご意見、そのほかにございましたら。よろしいですか。

それでは、市長の締めで終わりますので、お願いいたします。

市 長 今日、お忙しい中、またお寒い中、お集まりいただきましてありがとうございます。教育委員会としてはもう既に議決を頂いておりまして、恵那南地区中学校につきましては一歩前へ進んでいけというようなご示唆を頂いております。私どもも、それを踏まえ、受け止める形でこの3月をもって、こういった形で議決を頂けるものだと思っております。つきましては、これから先もいろいろな課題もたくさんあると思えますし、いろいろなことをおっしゃられる方もいらっしゃると思えますので、ぜひそういったところは、内側、外側、そして、中から外からアドバイス、そして、いろいろなご示唆を頂けたらと思っております。引き続き、皆様と一体となって進めてまいりたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

教育総務課長

ありがとうございました。それでは、令和4年度第2回総合教育会議、これで閉じさせていただきます。皆様、ありがとうございました。